

LINE 会話における日タイの依頼ストラテジー

—「対人配慮」の前置き表現に着目して—

サクンクルー カンスイニー (お茶の水女子大学大学院生)

1. はじめに

ここ数年のスマートフォンの普及をきっかけに、対面会話だけでなく、LINE を通じた非対面的なコミュニケーションが若者を中心に頻繁に行われるようになってきた。LINE 株式会社の調査 (2018) および LINE THAILAND の発表 (2017) によれば、LINE の利用者は日本が最も多く、7,100 万人を超えている。次いで、タイ (4,400 万人) である。

LINE は国を問わず、遠くにいても無料で気軽にやりとりができるため、母語場面でも接触場面でも LINE を使用してコミュニケーションをする機会はますます増えていくことが予想される。

言語や文化の違いによって、配慮の仕方やコミュニケーションストラテジーが異なると言われている (ウィッタヤーパニヤーノン, 2006)。LINE による依頼について分析したサクンクルー (2018) は、日本語母語話者 (以下 JNS) は依頼する前に様々な依頼ストラテジーを使用しているが、タイ語母語話者 (以下 TNS) は依頼前の行動が少なく、すぐに依頼する傾向があると述べている。具体的には、JNS は依頼の際に、相手への配慮を表すために相手の都合を聞く表現や相手に迷惑をかけることに対する謝罪表明や非言語的要素である絵記号を多用しているが、TNS の使用は見られなかったと報告している。

依頼は相手に負担をかける行為であり、人間関係に影響を与えることが想定される。相手に依頼の意図をはっきりと伝えることは必要だが、その本題に入る前に何らかの表現を前置きとして使い、相手に配慮を表すことも不可欠である。山下 (2002) によると、日本語母語話者に比べ、韓国人日本語学習者は前置き表現の使用が少なく、単刀直入な印象で、話の流れをさえぎるような印象を与える。前置き表現の不使用によって、本題である依頼の成り立ちに支障が起きることではなくても、様々な不満や誤解を招くことがしばしばあるのではないかと推察される。

前置き表現は配慮により発せられるものであり、陳 (2007) は配慮の種類によって、対人関係に対する配慮を表す前置き表現とディスコースの伝達性に対する配慮を表す前置き表現に分類した。本研究は、相手との人間関係を維持しながら、円滑なコミュニケーションを進める機能をもつ「対人配慮」の前置き表現に着目することとする。

そこで本研究は、LINE における日タイの依頼談話でどのような表現が対人配慮の前置きとして使用されているかを明らかにすることを目的とする。

2. 先行研究

2.1 依頼の定義

依頼についてはこれまで、山梨 (1986)、柳 (2006; 2012) などで定義されてきた。これらの定義に共通しているのは、相手に負担をかけ、依頼者自身の利益のためにある行為を行うように求めるという点である。加えて、柳 (2006) では依頼する際、より丁寧な言語行動が求められることも指摘されている。

本研究では、山梨 (1986)、柳 (2006; 2012) を参考にし、「依頼」を「相手に負担をかけ、ある行為を行うように求める言語行動であり、様々な対人配慮のストラテジーが求められる行為である」と定義する。

2.2 前置き表現の定義

前置き表現についてはこれまで、大塚 (1999)、陳 (2007a: 100, 2007b: 67-68) などで定義されてきた。

大塚 (1999) は、前置き表現を「本題に入る前に現れ、コミュニケーションを円滑に進めるための戦略として使用される表現」と定義し、日本人は「ちょっと失礼ですが」などの前置き表現を使用し、相手に配慮しながら会話を進めていくと指摘している。

陳 (2007a: 100, 2007b: 67-68) は、前置き表現の定義を次のように捉えている。

1. 前置き表現は何らかの配慮によって用いられ、主要な言語内容に先立つ。
2. 注釈的な機能、いわばメタリンガルな機能をもっているものの、ディスコースにおいてはそれより、その次にくる主要な言語内容を導入するという機能のほうが大きい。
3. 前置き表現には、話し手の、次にくる主要な言語内容に対する判断（態度）や認識が含まれている。
4. 前置き表現の有無によって、次にくる主要な言語内容の命題・事柄の成り立ちに支障が起きることはない。

以上を踏まえ、本研究では、「対人配慮によって使用され、依頼する側が話し始めてから本題である依頼発話の前に現れる表現」を前置き表現として扱うこととする。

2.3 絵記号や LINE スタンプをデータとして扱う研究

LINE は非対面かつ文字を介したコミュニケーションであるが、文字だけでなく、絵記号やスタンプといった LINE 独特のイラストの使用もよく見られる。

三宅 (2011) は若者の携帯メールにおける絵記号を①絵文字 (👉), ②顔文字 (TT), ③カッコ文字 (笑), ④記号 (!) を総称して呼び、「日本語はもともと文末の情意表現が豊かであり、文末に感情や相手に対する配慮が集中して現れる」と指摘している (三宅, 2011: 206)。両親、姉妹兄弟、友人、恋人、目上などの相手カテゴリーごとの使用頻度を分析した結果、絵記号が多く使われる相手として、姉妹兄弟、親しい友だち、あまり親しくない友だち、恋人が挙げられ、1 文につき、ほぼ 80% の割合で絵記号が使用されていることを明らかにした。

メグリアングライ (2015) は、LINE 会話に見られる断りにおける謝罪に着目し、友人同士の JNS と TNS、各 15 組の母語場面による誘いに対する断りのロールプレイデータを分析した。その結果、JNS は、TNS より謝罪が多く観察された。また、LINE は非対面会話であり、相手の表情が見えないため、誤解などが起こる可能性があり、JNS は文字による明確な謝罪だけでなく配慮を表すための絵記号やスタンプの使用が見られた。一方、TNS は、断りに対する負担をあまり感じていないと考えられるため、謝罪の使用が少ないことやスタンプのみの使用が観察された。

絵記号および LINE スタンプは、非対面会話では欠落する音声・視覚情報を補い、相手に何らかの感情や気持ちをより明確に伝える役割を担っている。LINE でやりとりをする際に、依頼する側が相手との人間関係を良好に保つために文字による言語的表現および絵記号や LINE スタンプといった非言語的表現の両方を「対人配慮」の前置きとして使用しているのではないかと予想される。そこで、本研究は以下のような研究課題 (RQ) を設けた。

RQ1 日タイの LINE 依頼談話において、JNS と TNS はどのような言語的「対人配慮」の前置き表現を使用しているか。

RQ2 日タイの LINE 依頼談話において、JNS と TNS はどのような非言語的「対人配慮」の前置き表現を使用しているか。

3. 研究方法

データは JNS と TNS 各 30 組、計 60 組の一対一の LINE 会話における母語場面の女性友人同士の会話であり、依頼場面のロールプレイデータを用いた。ロールプレイの内容は、日本とタイ両国の大学生活で起こりうる「友だちに LINE でレポート作成のために必要な本を貸してほしいと頼んだが、友だちもその本が必要なので貸すことはできない」という状況を設定した。

本研究は、RQ1 の言語的対人配慮の前置き表現を《A 依頼予告》、《B 譲歩／都合聞き》、《C 謝罪》の 3 つに、RQ2 の非言語的対人配慮の前置き表現を絵記号と LINE スタンプの 2 つに分類する。文字による言語的「対人配慮」の前置き表現および絵記号や LINE スタンプによる非言語的「対人配慮」の前置き表現を抽出し分析することによって、日タイの LINE 依頼談話における「対人配慮」の前置き表現の使用実態を明らかにする。

4. 結果と考察

4.1 日タイの LINE 依頼談話における JNS と TNS の言語的「対人配慮」の前置き表現の使用

表1 言語的「対人配慮」の前置き表現の使用数 (日タイ比較)

「対人配慮」の前置き表現	会話例 (日本語)	JNS	TNS
A 依頼予告	お願いがあるんだけど	10	1
B 譲歩／都合聞き	もし、使ってなかったら貸してもらえたりする？	20	-
C 謝罪	突然ごめんね、〇〇というタイトルの本持っていたりしない？	16	-
合計		46	1

表1で示したように、JNSは《A 依頼予告》10回、《B 譲歩／都合聞き》20回、《C 謝罪》16回、計46回使用しているが、TNSは言語的「対人配慮」の前置き表現を《A 依頼予告》の1回のみ使用していることがわかった。

会話例1はJNSの使用例である。JNS1は相手に呼びかけた後、まず、相手に迷惑をかけることを意識して《C 謝罪》をした。そして、相手に内容に対する構えを作らせ、これから何かを依頼することを予め伝えた。また、「貸してもらう」という本題を述べる前に、相手の都合を配慮し、《B 譲歩／都合聞き》をした。最後にもう一度《C 謝罪》をし、依頼話を終了させた。

会話例1 (JNS1：依頼する側、JNS2：依頼される側)

1	JNS1	JNS2 ちゃん、①ごめん《C 謝罪》②お願いがあるんだけど (;;) 《A 依頼予告》 来週までのレポート今書いてて、〇〇を使いたいなと思って... ③もし持ってた、可能だったら《B 譲歩／都合聞き》貸してもらえたら助かるのだけど... 貸してもらえないかな? (;;) ごめんね (;;)
---	------	--

一方、TNSは前置き表現をほとんど使用せず、相手にすぐ依頼の意図を伝える傾向が見られた。TNSの中で唯一《A 依頼予告》の使用が観察された会話例2でも、TNS1は相手であるTNS2に呼びかけた後、1回の前置き表現《A 依頼予告》を使用し、すぐに「レポートに必要な本を貸して」という依頼話を伝えた。

会話例2 (TNS1：依頼する側、TNS2：依頼される側)

1	TNS1	ฮาโหลลด	ハローーー
2	TNS1	มีเรื่องรบกวนน	①お願いがある〜〜《A 依頼予告》
3	TNS1		
4	TNS2	ฮัลโหล	ハローー
5	TNS2	มีอะไรหรอ	なに〜?
6	TNS1	ยืมหนังสือทำรายงานหน่อยจ้ ของเค้าหายง่า	レポートに必要な本を貸して〜。なくなっちゃったの

4.2 日タイの LINE 依頼談話における JNS と TNS の非言語的「対人配慮」の前置き表現の使用

次に、LINE 会話において JNS と TNS はどのような非言語的表現を使用しているかを以下の表2で示す。

表2 絵記号・LINE スタンプの使用数 (日タイ比較)

	JNS	TNS
絵記号 ¹	76	1
LINE スタンプ	6	16

JNS と TNS の非言語的表現の使用総数を見ると、スタンプの使用数ではTNSがJNSを若干上回っているが、絵記号の使用数ではJNSの方がTNSより大きく上回っていることがわかった。

¹ 組数からみると、JNS 30 組中 26 組、TNS 30 組中 1 組が絵記号を使用している。

スタンプの使用傾向については、JNS と TNS とともにスタンプの使用が見られたが、TNS の方がより多く使用している。JNS はスタンプを 6 回のみ使用したことが観察されたが、絵記号の使用は 76 回見られた。顔文字、絵文字、カッコ文字だけでなく、記号「！」の使用もほとんど見られなかった TNS に対して、JNS はほぼ全ての文末に絵記号を使用している。JNS は文字による明確なメッセージだけではなく、絵記号を使用してより一層の配慮を表していることがわかった。

日本国内において携帯メールは日常生活に欠かせないコミュニケーション手段とされていた。携帯メールは非対面会話であるため、文字のほかに絵記号を文中・文末に使用する工夫が見られた (三宅, 2000)。携帯メールから転じて LINE を使用するようになって、絵記号は非対面会話では欠落する感情を表すものとして使われ続けていると考えられる。しかし、タイの携帯電話にメールの機能は付いていないのがほとんどであり、携帯メールおよび絵記号を使用する機会？経験？が少ないと思われる。スマートフォンが使用されるようになって、タイ語版のキーボードには顔文字キーボードが付いてなく、自作するかインターネットなどからコピーするかという手間がかかる。そういった機能の違いが絵文字をはじめ絵記号の使用数に影響を与えていると考えられる。

5. まとめと今後の課題

言語的「対人配慮」の前置き表現の使用総数では、JNS は TNS より多く使用していることがわかった。《A 依頼予告》、《B 譲歩／都合聞き》、《C 謝罪》の前置き表現において、JNS は《B 譲歩／都合聞き》20 回、《C 謝罪》16 回の使用が観察された。また、言語的前置き表現だけでなく、JNS は文末に非言語的表現である絵記号を多用しているが、TNS ではほとんど見られなかった。以上の結果は JNS と TNS の依頼に対する認識の違いが原因の一つだと思われる。JNS は、依頼行為自体に負担を強く感じる (ウィッターバンヤーノン, 2006) ため、相手への配慮を表すために、相手の都合を聞き、迷惑をかけることを詫げる目的で《B 譲歩／都合聞き》や《C 謝罪》を多く使用した。加えて、非対面コミュニケーションである LINE では、お互いの表情が確認できないことから、配慮の気持ちを明確に伝える必要があり、言葉以外の要素の使用が見られたと考えられる。

本研究は依頼する側のみを中心として分析した。しかし、依頼される側は依頼する側の対人配慮をどのように理解するのかをまだ明らかにしていない。依頼される側の観点からの調査を今後の課題としたい。

謝辞 本稿の執筆にあたり、たくさんの有益なご助言をくださいました佐々木泰子先生、データ収集にご協力いただきました方々、そして佐々木ゼミの皆様にご心より感謝申し上げます。

参考文献

- คนไทยใช้ LINE อันดับสองของโลก <<https://www.voicetv.co.th/read/472506>> (2018 年 10 月 26 日 アクセス)
- 陳臻渝 (2007a). 日本語会話における前置き表現 言語文化学研究 言語情報編, 2, 99-115.
- 陳臻渝 (2007b). 日本語の前置き表現に関する一考察—会話文と投書の比較を通して— 人間社会学研究収録, 2, 67-80.
- LINE アカウント 2018 年 4 月～2018 年 6 月媒体資料 http://ad-center.line.me/mediaguide/contents_type=101 (2018 年 10 月 26 日 アクセス)
- メググリアングライ ポンティパー (2015). 「LINE」における「勧誘に対する断り」に見られる謝罪—タイ語母語話者と日本語母語話者の比較に着目して言語文化と日本語教育, 49, 110-113.
- 三宅和子 (2000). ケータイと言語行動・非言語行動 日本語学, 19(12), 6-17.
- 三宅和子 (2011). 日本語の対人関係把握と配慮言語行動 ひつじ書房
- 大塚容子 (1999). テレビ討論における前置き表現—「ポライトネス」の観点から— 岐阜聖徳学園大学紀要 教育学部外国語学部, 37, 117-131.
- 柳慧政 (2006). 日韓の依頼談話の開始部の対照研究—会話分析資料を中心に 学習院大学国語国文学会誌, 49, 1-16.
- 柳慧政 (2012). 依頼談話の日韓対照研究 談話の構造・ストラテジーの観点から 笠間書院
- サクンクルー カンシーニ (2018). LINE 会話における依頼ストラテジー—日タイ母語場面を比較して— 言語文化と日本語教育, 53, 25-27.
- ウィッターバンヤーノン スニサー (2006). 日本人とタイ人の「依頼」, 「勧誘」行為について—対人関係を維持するストラテジーを中心に— 三田國文, 43, 15-34.
- 山梨正明 (1986). 発話行為 大修館書店